

私は大丈夫・・病気に負けない

誰も気付かなかった。自分でも気付かなかった。知らず知らずのうち体が壊れ始めていた。いつの頃から？少しくらい苦しい日もあった。つらい日もあった。でも、たいした事ないと思ってた。だけど本当は違ってた。体の中がこんなに悲鳴をあげていたなんて。うそでしょ。まさかでしょ。信じたくない。5年前のあの日の朝、同じように体がつらくって、気付けば病室のベッドの上、私は、沢山の管に繋がれて生きていた。数ヶ月の月日を経て、元気になったと思ってた。なのに今又あの日と同じ白い壁の病室の中にいる私。

つらいのは体のはずなのに、心までもが壊れてく。あんなにだるいと思ってた教室に、こんなに帰りたいなんて、眠くておもしろくもない授業をこんなに受けたいなんて。静かな病室の中に鳴り響くLINEのピンポンの音。学園祭準備の楽しそうな会話が、いやでもスマホの中で飛び交うよ。鳴り続けるピンポン、ピンポン。心が張り裂けそう。私はそこへ入れない。戻れるのかも分からない。携帯なんて、スマホなんて無い時代だったら良かった。そしたら、こんなに苦しまないのに。

でも、その中に、私を救う音も文字もある。親友からのメッセージ。私を救う音もメッセージ。やさしい言葉のピンポン。やっぱり、この時代で良かった。つらいけど、でも心強い。力をくれるピンポン。そんな力に助けられ、今また教室に戻れたの。私が、ここに戻れたのは、頑張れたのは、やっぱり友達が居てくれたから。ありがとう。ありがとう。まだまだ、体は本物じゃないけれど、きつと私は大丈夫。病気になるて負けないよ。だってクラスメイトの支えがあるから。楽しい高校生活が送れるから。仲間と同じ場所にいられるから。そう思う心が体も癒してくれる。力をくれる。治してくれる。きつと私は大丈夫。